Title詩人ユゴーから小説家ユゴーへの変遷に関する研究Sub TitleResearch on the transition from a poet Hugo to a novelist HugoAuthor中野,芳彦(Nakano, Yoshihiko)Publisher慶應義塾大学Publication year2022Jtitle学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)JaLC DOIAbstract青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー (1802-1885)が、壮年期以降い 「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この 内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作 みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で のたちまつりたのであったのか。	
Author中野, 芳彦(Nakano, Yoshihiko)Publisher慶應義塾大学Publication year2022Jtitle学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)JaLC DOIAbstract青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
Publisher慶應義塾大学Publication year2022Jtitle学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.)JaLC DOIAbstract青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
Publication year 2022 Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.) JaLC DOI Abstract 青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.) JaLC DOI Abstract 青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
Jtitle 学事振興資金研究成果実績報告書 (2021.) JaLC DOI Abstract 青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
JaLC DOI Abstract 青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い 「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この 内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作 みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
Abstract 青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降い 「小説家」として自己形成していったのか。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この 内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴーの創作 みならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的で	
2年計画の1年目にあたる本年度は、共駅によりミシェル・ビュトール『レベルトワールII]』を上梓した。本書は、20世紀フランスを代表する作家ビュトールによる評論集であり そのうち2つの論考(「さかさまのバベル」および「小説家ヴィクトル・ユー」)の駅I した。前者はユゴーの鍵文を中心に分析する一方、後者は、そのタイトルが端的に示すよ 散文作家としてのユゴーを対象としている。同じ作家の2つの側面を鋭く対比させるその5 本研究の考察を深める大きな契機となったことはもちろんだが、そればかりでなく、論考 に引用されるユゴーのテキストを訳出することで、これまで日本の読者には未知であった 散文作品を多少なりとも明るみに出すことができたと信じている。 また、当初の研究計画には含まれていなかったものの、文化資源学会からの依頼により「 と文化財保護・「ノートル=ダム・ド・バリ」を中心に」と題した講演を行った。小説『 ル=ダム』の大ヒットが、現在世界遺産となっているパリの大聖堂の修復と保護に大きく1 ことはよく知られている。しかしこの作品が出版された1831年当時、ユゴーは一般にはま 人」として認識されていた。この講演では、10~20代に書かれた詩作品と本小説とに通庭 ーマを炙り出すことで、文化財保護を訴えるためのメディアとしての両者をユゴーがどの 使い分けていたのか考察した。 How did Victor Hugo (1802-1885), who was above all known as a poet and playwight befor exile, form himself as a "novelist" from the 1860s? What is the distinction between "poet" a "novelist" for this writer? Besides, did the distinction really exist in him? Our research aims light on this mystery which concerns not only Hugo's works but also their reception and the transition of his image as a writer. During the 2021 academic year, we translated some articles from "Répertoire II [1964]", wl collection of reviews by Michel Butor, a famous French writer of the 20th century. Among o two reflections: "Babel en creux" and "Victor Hugo romancier" contribute to deepen our res While this one is about Hugo's verses, this one is devoted, as its title suggests, to a Hugo prose writer. On the one hand, the remarkable contrast between the two aspects of the sal writer, which Butor highlights, was of course a great opportunity to develop our research, o other hand, the translation of Hugo's cuttaral heritage – Around Notr de Paris" at the request of the Association for the Study of Cutural heritage – Around Notr de Paris" at the request of the Association for the Study of Cutural heritage – Around Notr de Paris" at the request of the Association for the Study of Cutural heritage – Around Notr de Paris" at the request of the Association for the Study of Cutural heritage – Around Not de Paris" at the request of the Association for the Study of Cutu	活あ「13」 ある64 し、出う筆中韻 ユノ貢だすよ prend to michersa mic
Notes	
Genre Research Paper	
URL https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2021000003-202	10163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2021 年度 学事振興資金(個人研究)研究成果実績報告書

						1		
研究代表者	所属	商学部	職名	専任講師	補助額	300(A)千円		
	氏名	中野 芳彦	氏名(英語)	Yoshihiko Nakano				
研究課題(日本語)								
詩人ユゴーから小説家ユゴーへの変遷に関する研究								
研究課題(英訳)								
Research on the transition from a poet Hugo to a novelist Hugo								
		1. 4	研究成果実績の	概要				
青年期までは詩人・劇作家として名を成していたユゴー(1802-1885)が、壮年期以降いかにして「小説家」として自己形成していったの か。「詩人」と「小説家」との棲み分けは、この作家の内面においていかになされていたのか、あるいはなされていなかったのか。ユゴー の創作活動のみならず、作品受容や作家像の変遷にも関わるその謎に光を当てるのが、本研究の目的である。 2 年計画の1年目にあたる本年度は、共訳によりミシェル・ビュトール『レペルトワールII[1964]』を上梓した。本書は、20世紀フランス を代表する作家ビュトールによる評論集であり、私はそのうち2つの論考(「さかさまのパベル」および「小説家ヴィクトル・ユゴー」)の訳 出を担当した。前者はユゴーの韻文を中心に分析する一方、後者は、そのタイトルが端的に示すように、散文作家としてのユゴーを対 象としている。同じ作家の2つの側面を鋭く対比させるその筆致は、本研究の考察を深める大きな契機となったことはもちろんだが、そ ればかりでなく、論考中豊富に引用されるユゴーのテキストを訳出することで、これまで日本の読者には未知であった韻文・散文作品を 多少なりとも明るみに出すことができたと信じている。 また、当初の研究計画には含まれていなかったものの、文化資源学会からの依頼により「ユゴーと文化財保護~『ノートル=ダム・ド・ パリ』を中心に」と題した講演を行った。小説『ノートル=ダム』の大ヒットが、現在世界遺産となっているパリの大聖堂の修復と保護に大 きく貢献したことはよく知られている。しかしこの作品が出版された1831年当時、ユゴーは一般にはまだ「詩人」として認識されていた。 この講演では、10~20代に書かれた詩作品と本小説とに通底するテーマを炙り出すことで、文化財保護を訴えるためのメディアとして の両者をユゴーがどのように使い分けていたのか考察した。								
2.研究成果実績の概要(英訳)								
How did Victor Hugo (1802–1885), who was above all known as a poet and playwright before his exile, form himself as a "novelist" from the 1860s? What is the distinction between "poet" and "novelist" for this writer? Besides, did the distinction really exist in him? Our research aims to shed light on this mystery which concerns not only Hugo's works but also their reception and the transition of								
Butor, a famou contribute to d prose writer. O course a great may have shed We also gave a	1 academic ye is French write leepen our res on the one han opportunity to some light, it s a lecture entitle	ar, we translated some article r of the 20th century. Among earch. While this one is about d, the remarkable contrast be develop our research, on the seems to me, on certain works ed "Hugo and the protection of Cultural Resources. We know	others, two re Hugo's verses tween the two other hand, the unknown to Ja of cultural herit:	flections: "Babel en creux" a , this one is devoted, as its t aspects of the same writer, v translation of Hugo's texts, c panese readers. age - Around Notre-Dame de	and "Victor Hu, itle suggests, t which Butor hig sited extensively Paris″ at the	go romancier" o a Hugo as a hlights, was of y in the article request of the		
the restoration Hugo was still و	and protection generally knowr	n of the cathedral, now listed n as a "poet". In this conferen	as a World Her ce, we have exa	itage Site. However, when his amined how Hugo used the tw	s work was pub o means, poetry	lished in 1831, y and novel, to		
appear for the	protection of C	ultural property, analyzing the			outri and in this	novei.		
3.本研究課題に関する発表								
発表者 (著者・		発表課題名 (著書名・演題)	(清	発表学術誌名 著書発行所・講演学会)	学術誌系 (著書発行年月	e/丁牛月 引・講 演 年月)		
中野芳彦		ミシェル・ビュトール『レペル ル II[1964]』(共訳)	トワー 幻戯書	房	2021 年 12 月			
中野芳彦		ユゴーと文化財保護~『ノー ダム・ド・パリ』を中心に	トル= 文化資	源学会·特別講演会	2021 年 12 月			